

令和4年度第3回 恵那市介護保険運営協議会議事録

I 日時 令和5年2月27日（月）午後1時30分～午後2時15分

II 場所 恵那市消防防災センター 3階 防災研修室

III 審議委員 長谷川核三会長、篠原勝彦副会長、
山田忠委員、大木八重子委員、伊藤京子委員、三宅勝彦委員、
西部良治委員、鈴木弘二委員、西尾由香委員、島崎太郎委員、
古山雅博委員、伊藤剛志委員、鈴木八枝子委員、三宅弘文委員
(欠席) 前野禎委員、小木曾三枝委員、平野幸代委員、鈴木隆文委員

IV 傍聴者 1名

V 次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 議事
 - (1) 介護保険事業の実施状況について
 - (2) 介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況について
 - (3) 保険者機能強化推進交付金・保険者努力支援交付金について
4. その他
5. 閉会

VI 議事録

1. 開会

■事務局

定刻なので開会する。

この協議会は、介護保険事業の円滑な運営と、介護保険制度の推進を図るために設置されるもので、①介護保険事業に関する施策の実施状況に関すること、②介護保険事業に関する調査研究、③その他介護保険に関して必要な事項を協議いただくものである。

また、会議は、「恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、原則公開とし、会議録も要約版を公表する。

開会のあいさつを医療福祉部長が申し上げる。

■医療福祉部長

本日は令和4年度の実施状況を報告する。なお、3月議会には令和5年度の当初予算を計上している。令和4年度、令和5年度ともに給付費は前

年対比で伸びているが、第8期介護保険事業計画の計画値内に収まっており、事務局としては、運営は概ね適正に行われていると捉えているが、課題もあると認識している。

本日は令和4年度の内容について審議いただき、忌憚のない意見を頂きたい。

ただいまから令和4年度第3回恵那市介護保険運営協議会を開会する。

[新任委員の委嘱]

2. あいさつ

■会長

委員においては、年度末の忙しいなか出席いただき感謝する。活発な意見を頂きたい。

[委員自己紹介]

3. 議事（進行：会長）

（1）介護保険事業の実施状況について

[事務局説明]

■会長

質問、意見を求める。

■委員

現場の感覚としては利用者が増えている。高齢化率も恵那は高いと思っていたが、認定者数が横ばいなのが不思議だ。認定者数には、要支援・総合事業の人数は入っていないのか。

■事務局

認定者数は、要介護と要支援の認定者である。総合事業のみの人は入っていない。

■委員

6ページ、介護給付費の推移。年々増えていくが、一体どこまで増えていくか。恵那市の人口はそんなに増えてないし、高齢化率は高いが、介護給付費が徐々に増えていく傾向が見えるが、原因は分かるか。

それだけ介護を受ける人が多いのか、高齢化率が高いからか。少しは減ってもいいのではないか。特に、計画値と実績が令和3年は競っており、令和4年も少し厳しく、そのうち超してしまうのではないか。そこをどう考えておられるか。

■事務局

給付費は年々増えている。その要因は、高齢者、65歳以上は横ばいと言われているが、後期高齢者である75歳以上がまだ伸びている。介護を受けるのは後期高齢者が多いので、まだ増えると予測している。

計画に対する見込みは、増加傾向を見越して設定しており、そこから介

護保険料を算出している。今のところ、競ってはいないが計画値の範囲内にある。ただ、今後まだ伸びていくだろう。次期計画では数の見込みを踏まえて委員にも議論いただきたい。

併せて、計画では、施設への入所を待機している人が複数名いるということから、計画期間中には施設、ベッドの数を増やすこととし、8期計画の中では特別養護老人ホームで20床の増床を予定している。介護老人保健施設でも5床の増床を計画している。一般的に、施設への入所は在宅サービスと比較して給付費がかなり伸びる。現在のニーズに合わせると給付金は上がる傾向にある。

それから、市外施設の利用もある。子供が他市にいて近くに入所させたい場合などは、最初の住所地の保険者が費用を負担するルールになっている。恵那に住居を持った方が名古屋の施設に直接入所する際には、恵那市がその人の給付費を負担することとなる。

ニーズが増えれば費用が膨らむことになる。

(2) 介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況について

[事務局説明]

■会長

質問、意見を求める。

■委員

第8期福祉計画に、「介護を受けながら安心してその地域で暮らす」という言葉が出てくる。私たちが今行なっている住民主体による支援、通所サービスについて、笠原地域を見ると元気な人が増えてきているので良い事業だと思っている。

ただ、最近物価が上がっておりサービス提供も大変である。できるだけ元気に暮らしていくために、また違った支援を他市の事例などを参考にして検討いただきたい。

最近、地域の独居世帯で亡くなる事案があった。亡くなった翌日にケアマネが様子を見に行き、ちょうどJAの訪問の車も来たため、その2人で対応してくれた。包括で関係機関を繋いでいたため、結果として早く発見することができたと思う。市でやっていることが成果に現れているということを実感した。

■会長

事務局に質問する。サービス提供者に向け、物価高騰に対応する予算を設けるようなことはないか。

■事務局

物価高騰については、令和4年度に介護だけでなく障がいサービスや子育てサービスなど、いろいろな分野で厳しいという意見があったため、9月議会にて臨時的に物価高騰対策の交付金を計上して対応した。施設

規模等によって支給金額の大小はあるが、国の財源を活用した。

来年度の取り組みについて、基本的に介護サービス事業は、国にルールが委ねられており介護報酬が決まっているので、このあたりを恵那市独自に変えるのは難しい。ただ、地域支援事業は市の裁量が可能なため、令和5年度は単価アップする方向で予算組みをしている。市でできることは対応したい。

(3) 保険者機能強化推進交付金・保険者努力支援交付金について

[事務局説明]

■会長

質問、意見を求める。事務局に質問するが、これら得点はコンピュータ等で簡単に処理できるのか。

■事務局

非常に難解な評価指標になっており、他の市町村も大変だと聞いている。各設問を解釈して、恵那市はどの項目が該当するかを協議し、やらなければならないことなどを判断して国に提出する。地域の実情に応じて判断する必要があり、手間は要する。

■会長

事務手続きが大変だ。

4. その他 なし

5. 閉会

■会長

恵那市介護保険運営協議会を閉会し、引き続き恵那市地域密着型サービス運営委員会を開会する。